

CentreCOM® 9812T/9816GB リリースノート

この度は、CentreCOM 9812T/9816GB をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M6933-00 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M6933-01 Rev.D）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.6.2 pl01 (2.6.2-01)

2 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン 2.5.1 pl15 から 2.6.2 pl01 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.6」(Rev.D) をご覧ください。

2.1 RADIUS

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

ログインユーザーの認証や 802.1X 認証、ファイアウォールルールのアクセス制御機能において、RADIUS 認証サーバーへの問い合わせが可能になりました。

2.2 ダイナミックポートセキュリティ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

ポートセキュリティ有効時に学習したMACアドレスをエージングの対象にするかどうかを選択できるようになりました。デフォルトでは、ポートセキュリティ有効時に学習した MAC アドレスはエージングの対象となりませんが、SET SWITCH PORT コマンドの RELEARN パラメーターに ON を指定すると、エージングされるようになります（ダイナミックポートセキュリティ）。

2.3 802.1X 認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「802.1X 認証」

ポート単位で LAN 上の機器を認証する IEEE 802.1X 認証に対応しました。

2.4 ICMP メッセージの送信・非送信設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「概要」

一部の ICMP メッセージ（Network Unreachable、Host Unreachable、Redirect）について、送信する・しないの設定変更が可能になりました。設定は ENABLE/DISABLE IP ICMPREPLY コマンドで行います。デフォルトは「すべて送信」です。

2.5 RIP ユニキャスト

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (RIP)」

同一サブネット上にない RIP2 ルーターとの間で、ユニキャストによる RIP パケットの送受信が可能になりました (RIP ユニキャスト)。RIP ユニキャストの設定は、ADD/SET IP RIP コマンドの IP パラメーター (ユニキャストの宛先) と NEXTHOP パラメーター (RIP2 パケットの Next Hop フィールド) で行います。

2.6 Ping ポーリング

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「Ping ポーリング」

ICMP Echo メッセージ (Ping パケット) を利用して監視対象機器をポーリングし、機器からの応答パケットを定期的に確認する Ping ポーリング機能が追加されました。本機能を利用すると、応答が途絶えたときや回復したときに、経路変更などのトリガースクリプトを実行可能です。

2.7 IPv6 ダイナミック経路の優先度設定 (AT-FL-11)

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「経路制御」

IPv6 において、ダイナミック経路 (RIPng 経路) の優先度 (preference) を変更できるようになりました。設定は SET IPV6 ROUTE PREFERENCE コマンドで行います。

2.8 IGMP スタティックエントリー

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

IP マルチキャストのグループメンバーをスタティックに登録できるようになりました。

2.9 IPX

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPX」

IPX (Internet Packet Exchange) に対応しました。本製品は、IPX パケットの転送処理をハードウェアで行うことができます。経路制御方式はスタティックルーティングと IPX RIP/SAP です。また、ハードウェアパケットフィルタにより、IPX パケットのフィルタリングも可能です。

2.10 ファイアウォール: RADIUS ルール (AT-FL-10)

参照 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」

RADIUS サーバーを利用してファイアウォールのアクセス制御を行えるようになりました。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.5.1 pl15 から 2.6.2 pl01 へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。

3.1 SNMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SNMP コミュニティー名に、記号類（# \$ % など）を含むすべての印刷可能 ASCII 文字を使用できるようになりました。

3.2 PIM-DM

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

SET PIM コマンドの PRUNEHOLDTIME パラメーターのデフォルト値が 60 秒から 210 秒に変更されました。

3.3 DHCP サーバー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

ADD/SET DHCP POLICY コマンドの MERITDUMPFIL、ROOTPATH パラメーターに指定できる文字列の長さが 254 文字に拡張されました。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.5.1 pl15 から 2.6.2 pl01 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 DELETE INSTALL コマンドを実行すると NVS 上に gui.ins というファイルが作成されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.2 コマンドライン上で「Ctrl」+「N」+「U」キーを押すと、画面表示が不正になっていましたが、これを修正しました。
- 4.3 コンパクトフラッシュから本製品内蔵のフラッシュメモリーにファイルをロードする場合、ENABLE IP コマンドで IP モジュールを有効にする必要がありましたが、これを修正しました。
- 4.4 DESTINATION=NVS のログ出力先定義において、MESSAGES パラメーター（保存するメッセージの最大数）を設定しても、指定した数値以上のメッセージが保存される場合がありましたが、これを修正しました。
- 4.5 SET LOG OUTPUT コマンドの MESSAGES パラメーターで TEMPORARY ログに保存するメッセージ数を変更すると、SHOW LOG コマンドで TEMPORARY ログが正しく表示されなくなっていました。これを修正しました。
- 4.6 スクリプトにグローバルな特殊変数を使用した場合、IF THEN ELSE の文字列比較演算子 EQ（等しい）および NE（等しくない）が文字列の先頭 2 文字しか比較しませんでした。これを修正しました。

- 4.7 スクリプトに変数 %T, %N, %S を使用した場合、IF THEN ELSE 文で EQ を指定しても 2 つの文字列が等しいときに真を返すという動作になりませんでした。これを修正しました。
- 4.8 NTP パケットの Root Dispersion フィールドにマイナスの値をセットしてしまいましたが、これを修正しました。
- 4.9 包含関係にある複数のネットワークアドレス（例えば、10.0.0.0/8 と 10.0.0.0/24）が存在する場合、IP テーブルにこれらのアドレスが正しく登録されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.10 TRACE コマンドの実行完了前に次の TRACE を実行すると、本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.11 フラグメント化されている OSPF パケットを破棄してしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.12 OSPF において、本製品が DR として動作しているネットワークのリンクがダウンしても、ネットワーク LSA の更新通知を送信しませんでした。これを修正しました。
- 4.13 スタティック ARP エントリを登録したポートでケーブルを抜き差しすると、該当アドレス宛でのユニキャストパケットがフラッディングされていましたが、これを修正しました。
- 4.14 ADD IPV6 INTERFACE コマンドの IPADDRESS パラメーターにリンクローカルアドレスを指定した場合、設定を保存しても再起動後に消去されていましたが、これを修正しました。
- 4.15 ファイアウォールにおいて、TCP SYN パケットの代理応答が有効にもかかわらず、TCP ヘッダーに ECE フラグが設定されたパケットを受信した場合、ACK を返さずに転送していましたが、これを修正しました。
- 4.16 ファイアウォールにおいて、TCP SYN パケットの代理応答無効時に、TCP SYN + ACK パケットが VLAN を越えるとシーケンス番号が 0（ゼロ）になっていましたが、これを修正しました。
- 4.17 ファイアウォールにおいて、システム時刻の変更により、TTL パラメーターを含むファイアウォールルールが削除されてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.18 ファイアウォールポリシーからアクセスリストを削除する DELETE FIREWALL POLICY LIST コマンドを実行すると、すべてのルールが削除されていましたが、これを修正しました。
- 4.19 DHCP サーバー機能とローカル IP インターフェース（SET IP LOCAL コマンド）を併用した場合、DHCPOFFER メッセージを再送するときにローカル IP インターフェース

の IP を使用せず、パケットを送出するインターフェースの IP を始点 IP アドレスとして使用していましたが、これを修正しました。

4.20 本製品を DHCP サーバーとして使用している場合、MacOS X など一部の OS を搭載したコンピューターがスリープ状態から復帰するときに IP アドレスを取得できないことがありましたが、これを修正しました。

4.21 本製品を DHCP サーバーとして使用している場合、DHCPREQUEST を拒否した (DHCPNAK を返送した) ときに記録されるログメッセージ内の IP アドレス (DHCPREQUEST の送信元) が正しくありませんでしたが、これを修正しました。

4.22 ADD/SET DHCP POLICY コマンドの以下のパラメーターが指定した値と逆の動作をしていましたが、これを修正しました。

ETHERENCAP, MASKDISCOVERY, MASKSUPPLIER, ROUTERDISCOVERY,
SUBLOCAL, TCPGARBAGE, TRAILERENCAP

4.23 DHCP レンジにブロードキャストアドレスやネットワークアドレスが含まれる場合、これらのアドレスを DHCP クライアントに割り当てていましたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン 2.6.2 pl01 には、以下の制限事項があります。

5.1 コンパクトフラッシュについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

SHOW CFLASH コマンドでコンパクトフラッシュカードのシリアル番号を表示すると、表示されたシリアル番号の前に不要なスペースが入ります。シリアル番号は正しく表示されていますのでスペースは無視してください。

5.2 NVS 上のシステムファイル保護機能について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

CLEAR NVS TOTALLY コマンド実行後など、prefer.ins がフラッシュメモリー上にだけ存在する状態でシステムを再起動すると、ファームウェア構成情報が読み込まれず、EPROM からシステムが起動します。CLEAR NVS TOTALLY コマンド実行後は、SET INSTALL コマンドでリリースファイル (とパッチファイル) を指定しなおしてください。

5.3 SHOW USER コマンドについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ユーザー認証データベース」

Telnet ログイン時に RESET ASYN=0 を実行すると、シリアルコンソールからのログインセッションが強制終了されますが、SHOW USER コマンドの「Active (logged in) Users」欄には「Asyn 0」からログインしたユーザーが残ったままになります。

5.4 ログについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

- CREATE LOG OUTPUT コマンドの QUEUEONLY、MAXQUEUESEVERITY パラメーターが機能しません。
- SET LOG OUTPUT コマンドで PERMANENT ログの設定を変更すると、既存のログが削除されます。
- ADD LOG RECEIVE コマンドの設定がシステムを再起動するまで有効になりません。ADD LOG RECEIVE コマンド入力後は、設定を保存し、システムを再起動してください。

5.5 トリガーについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「トリガー」

- CREATE TRIGGER コマンドの REPEAT パラメーターに回数を指定した後、設定をファイルに保存すると、設定ファイル上の REPEAT パラメーターの値が入力時とは異なる場合があります。
- メモリートリガーが正しく動作しません。

5.6 SNMP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- dot1dStpRootPort, dot1dStpPort, dot1dTpFdbPort, dot1dTpPort のポート番号が正しく表示されません。
- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards (MIB-II) がカウントされます。

5.7 NTP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

Windows XP 標準の NTP クライアントから NTP 要求を受信しても応答しないことがあります。

5.8 SET TELNET コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

SET TELNET コマンドをパラメーターなしで実行すると（単に「SET TELNET」と入力すると）、SHOW TELNET コマンドと同じ動作になります。

5.9 SET TTY コマンドの PAGE パラメーターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

SET TTY コマンドの PAGE パラメーターに OFF を指定した場合、この設定変更を CREATE CONFIG コマンドでファイルに正しく保存できません。

5.10 RESET SWITCH PORT コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

RESET SWITCH PORT コマンドは、1000BASE-SX ポート、および AT-G8SX、AT-G8LX、AT-G8T、AT-G9ZX の GBIC ポートに対しては使用できませんが、現状これらのポートに対しても本コマンドがエラーにならずに受け付けられます。

5.11 ポートミラーリングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

ソースポートの所属 VLAN から送信される予約 IP マルチキャストパケット（OSPF、IGMP、PIM 等）がミラーポート自身からも送信されます。

5.12 ポートセキュリティーについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

INTRUSIONACTION=TRAP に設定したとき、一度 SNMP トラップを送信すると、その後不正パケットを受信してもトラップを送信しなくなります。

5.13 ポート帯域制限機能について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

SET SWITCH PORT コマンドの EGRESSLIMIT パラメーターでポート帯域制限（送信レート上限値）の設定をした場合、コマンド入力直後は正しく帯域制限されますが、設定保存後に再起動すると帯域制限が機能しなくなります。再起動トリガーを使用するなどして、再起動後に EGRESSLIMIT を設定しなおすようにしてください。

5.14 スパニングツリープロトコルについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」

- ENABLE STP コマンドを実行すると、DISABLE STP PORT コマンドによる各ポートの STP 無効の設定が削除され、STP が有効になります。
- SET STP コマンドを DEFAULT オプション付きで実行すると、DISABLE STP PORT コマンドで STP を無効にしていたポートで通信ができなくなります。DISABLE STP PORT コマンドで STP を無効にしたポートがある場合は、SET STP コマンドの DEFAULT オプションを使用しないでください。

5.15 ポリシーベース QoS について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポリシーベース QoS」

- QoS 対象スイッチポートに設定されている通信速度と、実際の通信速度が同一であるにもかかわらず、Warning（警告）のメッセージが表示される場合があります。この警告は無視してください。

- ADD QOS FLOWGROUP コマンドで同じエントリーを複数入力できてしまいます。また、その後 SET QOS PORT コマンドを実行するとリポートすることがあります。同じエントリーを複数入力しないようにしてください。
- CREATE/SET QOS TRAFFICCLASS コマンドの MINBANDWIDTH、MAXBANDWIDTH パラメーターに 64Kbps の倍数でない値を指定した場合、内部的な設定値は 64Kbps の倍数になるよう丸められますが、そのことを示すメッセージが表示されません。また、SHOW QOS TRAFFICCLASS コマンドの「Min Bandwidth」、「Max Bandwidth」欄には、丸めた後の実際の設定値ではなく、コマンド入力時に指定した値が表示されます。

5.16 ハードウェアパケットフィルターについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

ADD SWITCH HWFILTER コマンドにおいて、CLASSIFIER パラメーターに DVLAN または PROTOCOL=ARP を条件に含むクラシファイアを指定し、ACTION パラメーターに FORWARD を指定した場合、DPORT パラメーターにポート 1 が含まれていると、条件にマッチする ARP パケットが破棄されます。クラシファイアが DVLAN を条件としている場合、DVLAN 内に 2 つ以上リンクアップしているポートがあれば本現象は発生しません。また、クラシファイアが PROTOCOL=ARP を条件としている場合、システム全体で 2 つ以上リンクアップしているポートがあれば本現象は発生しません。

5.17 ICMP メッセージについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。

5.18 TRACE コマンドについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

SET TRACE コマンドのパラメーターに有効範囲外の値を指定してもエラーにならないことがあります。

5.19 IP 統計情報の表示について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

- ICMP アドレスマスク応答メッセージ受信時に、SHOW IP COUNTER コマンドで表示される inAddrMaskReps カウンターがカウントされません。
- ファイアウォール (AT-FL-10) 有効時、SHOW IP COUNTER コマンドで表示される受信パケットカウンター (ifInPkts、ifInBcastPkts、ifInUcastPkts、ifInDiscards) に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。
- IP チェックサムエラーのパケットを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドで表示される inHdrErrors カウンターがカウントされません。

5.20 BGP-4 (AT-FL-09) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

ダウンした経路の取り消しをピアに通知した後、該当経路を BGP の経路表から削除する前に同経路が再びアップしても、その経路をピアに再広告しません。

5.21 DNS サーバーアドレスの動的取得について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されません。

5.22 DNS キャッシュについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

5.23 スタティック ARP エントリーについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

マルチホーミングした IP インターフェース上にスタティック ARP エントリーを登録する場合、存在しない論理インターフェースを ADD IP ARP コマンドの INTERFACE パラメーターに指定すると、システムがリポートします。存在しないインターフェースを指定しないようご注意ください。

5.24 UDP ブロードキャストヘルパーについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「UDP ブロードキャストヘルパー」

UDP ブロードキャストパケットの転送先は 32 個まで設定可能ですが、コマンドを入力した後、設定を保存して再起動するまでは、28 個目までしか機能しません。また、設定保存後に再起動しても 31 個目までしか機能しません。

5.25 IPv6 の PING について (AT-FL-11)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」

PING コマンドで IPv6 のグローバルアドレスを指定し、なおかつ、送出インターフェース名を指定すると、リポートすることがあります。グローバルアドレス指定時は、送出インターフェースを指定しないでください。

5.26 6to4 トンネルインターフェースの作成について (AT-FL-11)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「IPv6 インターフェース」

- ADD IPV6 6TO4 コマンドで 6to4 トンネルインターフェースを作成したとき、「v6 over v4 tunnel successfully」と表示されます。

- ADD IPV6 6TO4 コマンドで同じ IP アドレスを持つ 6to4 トンネルインターフェースを複数作成できてしまいます。

5.27 SET IPV6 PREFIX コマンドについて (AT-FL-11)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IPv6」](#) / [「近隣探索」](#)

SET IPV6 PREFIX コマンドの設定をした場合、コマンド入力直後は正しく機能しますが、設定保存後に再起動すると正しく機能しなくなります。

5.28 Neighbour キャッシュについて (AT-FL-11)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IPv6」](#) / [「近隣探索」](#)

ADD IPV6 ND コマンドが動作しません。

5.29 DVMRP について

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「DVMRP」](#)

- IGMP Snooping 無効時、クライアントから IGMP Report メッセージを受信しても、該当ポートを DVMRP の転送表（転送キャッシュ）に登録しないことがあります。
- SHOW DVMRP コマンドの COUNTERS オプションにおいて、Prune パケット送信数（Send Pkts）に実際の 2 倍の値が表示されます。

5.30 PIM-DM について

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「PIM」](#)

- インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。
- Assert が発生する環境において、Assert Timer 満了時にデータをフラッシングすることなく再 Assert するため、下流ルーターがマルチキャストデータを受信できなくなることがあります。このようなときは、SET PIM コマンドの PRUNEHOLDTIME パラメーターを 180 秒未満に設定してください（デフォルトは 210 秒）。

5.31 PIM-SM について

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「PIM」](#)

インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。

5.32 IGMP について

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「IGMP」](#)

- IGMP が有効で、IGMP Snooping が無効のとき、マルチキャストデータがフラッシングされません。

- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Leave メッセージを受信すると、同タイマーが更新されます。
- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。
- IGMP、IGMP Snooping の badQuery、badRouterMsg カウンターがカウントされないことがあります。

5.33 IGMP Snooping について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

224.0.0.X (ルーターパケット以外) 宛でのマルチキャストパケットを受信すると、All Group エントリーを作成してしまいます。

5.34 MLD Snooping (AT-FL-11) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「MLD Snooping」

MLDパケットを運ぶIPv6パケットのHop-by-Hopオプションヘッダーにおいて、Router Alert オプションが、Router Alert → パディング (PadN) の順に配置されている場合、本製品の MLD Snooping (AT-FL-11) 機能はこれを不正パケットと認識してしまうため、メンバーを登録できません。PadN → Router Alert の順で配置されている場合は正しく認識します。

5.35 IPX について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPX」

SHOW IPX CIRCUIT コマンドにおいて、リンクステータス (Link State) の表示が正しくないことがあります。このようなときは、ケーブルを抜き差ししてください。

5.36 ファイアウォール (AT-FL-10) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」

- 不正な ACK 番号を持つ TCP セグメントに対しても ACK を返します。
- ファイアウォールポリシーにアクセスリストを登録する場合、IP アドレスリストよりルール番号の大きい MAC アドレスリストは有効になりません。MAC アドレスリストのルール番号は IP アドレスリストのルール番号よりも小さくなるように設定してください。
- PUBLIC 側で受信したパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Total Packets Received カウンターが2ずつカウントされます。
- PRIVATE 側に設定した Deny ルールでパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Number Dropped Packets カウンターがカウントされません。

6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

付属の「取扱説明書」、および「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.6」(Rev.D)の補足事項です。

6.1 HTTP サーバー（サポート対象外）について

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

6.2 ポートのリンクアップ時のログ表示について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

スイッチポートの速度が変わったときに、SHOW LOG コマンドで表示されるログに、下記のようなメッセージが記録される場合がありますが、動作に問題はありませので、このメッセージは無視してください。

Parameter EGRESSLIMIT, value has been rounded to XXXX

6.3 SNMP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SHOW BUFFER コマンドの表示とホストリソース MIB の hrStorageUsed では、メモリー使用量が若干異なります。これは、SNMP Get Request への応答にもメモリーを使うためです (hrStorageUsed の値は、このときの消費量を差し引いた値になります)。

6.4 ポートミラーリングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

本製品は、受信パケットのミラーリングだけが可能です。送信パケットのミラーリングには対応していません。以前のドキュメントには記載されておりませんが、本仕様は 2.6.2 pl01 を含むすべてのソフトウェアバージョンに適用されます (「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.5」(Rev.C) において追記されました)。

ソースポートの設定をするときは、SET SWITCH PORT コマンドの MIRROR パラメーターに RX か NONE のどちらかを指定してください。TX や BOTH を指定してもエラーにはなりません。これらを指定した場合の動作はサポート対象外となります。TX と BOTH は指定しないでください。

未サポートコマンドおよびパラメーターについては、本リリースノートの「7 未サポートコマンド (機能)」をご参照ください。また、設定コマンドの詳細については最新のコマンドリファレンスをご覧ください。

6.5 イングレスフィルタリングについて

本製品はイングレスフィルタリングをサポートしていないため、受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、パケットは破棄されません。

6.6 スタティックルートの設定について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (スタティック)」

ADD IP ROUTE コマンドでスタティックルートを設定する場合、NEXTHOP パラメーターで指定するネクストホップルーターの IP アドレスは、INTERFACE パラメーターで指定する IP (VLAN) インターフェイスと同じサブネットにある必要があります。異なるサブネットに属する IP アドレスを指定した場合は、エラーによりコマンドは実行されません。

6.7 ルーター通知 (RA) について (AT-FL-11)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「近隣探索」

SET IPV6 ND コマンドの RETRANS パラメーター (ルーター通知 (RA) の Retrans Timer フィールドにセットする値) の最小設定単位は 100 (ミリ秒) です。同パラメーターに 100 の倍数でない値を指定した場合は、もっとも近い 100 の倍数に切り上げられます。

6.8 PIM について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

本製品の ASIC は、OIF から受信したマルチキャストパケットを CPU に転送しないため、OIF からマルチキャストパケットを受信したときでも Assert メッセージは送出されません。このため、隣接ルーターが存在する OIF に対しては、マルチキャストパケットを受信したか否かにかかわらず、Assert メッセージを送出します。

6.9 コンパクトフラッシュカードの取り付けかた

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

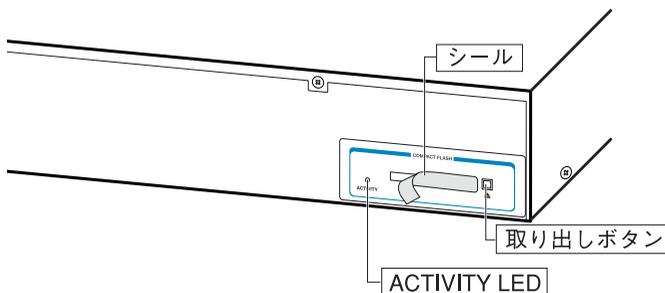
本製品には、オプション（別売）で、コンパクトフラッシュカード（以下、CF カードと省略します）「AT-CF-128A-001」が用意されています。外部記録メディアとして、ファームウェアや設定ファイルの保存が可能です。

- ▶ 弊社販売品以外の CF カードでは動作保証をいたしませんのでご注意ください。
- ▶ CF カードのデータは他の CF カードリーダーでも操作が可能のため、取り扱いには充分ご注意ください。
- ▶ 本製品は FAT16 フォーマットの CF カードに対応しています。FAT32 や NTFS フォーマットの CF カードは、コンピューターで FAT (FAT16) にフォーマットしてからご使用ください。

本製品に CF カードを取り付ける手順は以下にしたがってください。

- ▶ CF カードはホットスワップ対応のため、取り付け / 取りはずしの際に、本製品の電源を切る必要はありません。

1. ご購入時には、CF カードスロットをシーリングしてあります。CF カードを使用する際にはシールをはがしてください。



2. CF カードをスロットにしっかりと奥まで差し込みます（CF カードが挿入されると、取り出しボタンが飛び出ます）。

CF カード使用時の ACTIVITY LED の表示は以下のようになります。

色	状態	表示内容
緑	点滅	CF カード挿入時に一回点滅します。
	点灯	CF カードにアクセスしているときに点灯します。

CF カード挿入時、カードが正しく認識されると、以下のようなメッセージが表示されます。

Info (1106268) : Compact flash card initialisation successful.

CF カードが正しく認識されなかった場合、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

Error (3106300) : Compact flash card initialisation unsuccessful.

さらに、SHOW CFLASH コマンドを使用して、CF カードが正しく認識されているか確認することができます。

(正しく認識されている場合)

.....(省略).....

Card Information:

Hardware detected.....Yes

.....(省略).....

(正しく認識されていない場合)

.....(省略).....

Card Information:

Hardware detected.....Yes (Invalid)

.....(省略).....

CF カードを取りはずす場合は、取り出しボタンを押して CF カードを引き抜きます。

▲ CF カードへのアクセス中 (ACTIVITY LED 点灯中) に、CF カードを取りはずさないでください。
データが破損する恐れがあります。

CF カード上のファイル操作などについては、コマンドリファレンスをご参照ください。

7 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下のキーワードを含む全コマンド
ENABLE の後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。
ALARM, APPIetalk, CLNS, ETH, GARP, GRE, GUI, HTTP, L2TP, LDAP,
LOADBalancer, LB, PIM6, PKI, PPP, RSVP, SA, SSL, STAR, SYSTEM SYSR

- 以下のコマンド (パラメーター)
下線が引いてあるコマンド (パラメーター) は「コマンドリファレンス 2.6」(Rev.D) に
記述があります。

COPY
DUMP
START PKT
STOP PKT
SET PKT
SET SYSTEM TEMPTHRESHOLD
TRACE [ADDRONLY]
PING [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
SET PING [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS]
[SOSIADDRESS]
SHOW SWITCH SOCK
SHOW SWITCH TABLE
SET SWITCH SOCK
SET SWITCH PORT [JUMBO] [MIRROR=(BOTH;TX)]
[SPEED=(10MHAUTO;100MFAUTO;100MHAUTO;100MFAUTO;
1000MHAUTO;1000MFAUTO;1000MHALF)]
ENABLE/DISABLE SWITCH BIST
SET SWITCH BLADE
RESET SWITCH BLADE
SHOW SWITCH HOTSWAP
ADD/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP
ADD/SET/SHOW IP SA
SET IP INTERFACE [VJC]
SHOW IP CACHE
SHOW IP POOL
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE MULTICAST
SHOW IP FLOW
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE
CREATE QOS TRAFFICCLASS [PRIORITY]

```
CREATE QOS FLOWGROUP [PRIORITY]
CREATE QOS TRAFFICCLASS [STATUS]
SET QOS PRIORITYQUEUEING
SET QOS VLANQUEUEMAP
SET QOS TRAFFICCLASS [STATUS]

ADD/SET/DELETE DVMRP DLC
ADD/SET/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/SET IPV6 FILTER [PRIORITY]
ADD/SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW

ADD/DELETE/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRRESH]

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY
ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMOURCES
ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER
SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN
SET FIREWALL POLICY ATTACK
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES

CREATE ENCO KEY TYPE={DES;3DES2KEY;3DESINNER;GENERAL} [MODULE]
[{{RANDOM;VALUE}}] [FORMAT={HEX;NIQ}]
ENABLE/DISABLE ENCO COMPSTATISTICS
SET ENCO MODULE
SET ENCO SW
SHOW ENCO CHANNEL
SHOW ENCO COUNTER={DES;HMAC;JOBPROCESSING;PRED;STAC;
USER;UTIL}

SET BOOTP MAXHOPS
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]
```

8 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.6 (J613-M6933-01 Rev.D)」は弊社 Web サイトに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web サイトで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M6933-01 Rev.D」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

